

配信されたオペラ「チエネレントラ」

川口 ひろ子

「チエネレントラ」は童話シンデレラを基にしたオペラで、作曲はジョアッキーノ・ロツシーニ、一八一七年ローマで初演された。二〇二二年秋、初台の新国立劇場で上演された新演出の舞台は、色彩感覚抜群の美術と日伊合同の歌手による庄巻の歌唱により大好評を博したという。この公演が同年暮れに無料配信された。体調不良で外出を控えている私にはまことに有難い贈り物、早速パソコンにかじりついて視聴した。

主人公は落ちぶれた老貴族の許に嫁いだ後妻の連れ子で、意地の悪い継父や二人の義姉から「灰かぶり娘」と呼ばれて、こき使われている。しかし彼女は負けてはいない。勝ち気で明るい性格をフル活用して、自らの幸せを自分の手で掴みに行く。背筋をスツと伸ばした女性のスッキリした立ち姿はこちらの気分迄爽快にしてくれる。この役を歌ったメゾソプラノの脇園彩が素晴らしかった。柔らかで力みのない歌声が時に心地よく、またある時には激しく響き渡る。早口言葉に託して、運命を切り開こうとしている人間の心の昂りを訴えるシーンには感激した。現在イタリアで活躍中と聞くと、大柄な身体に恵まれ、主役の貴族も充分備わっていて、今後が楽しみだ。

老貴族役のベテラン、アレッサンドロ・コルベツリはソフトで味わい深い低音と立っているだけで意地悪爺さんになってしまう不思議な個性で、イタリアオペラの魅力を存分に示してくれた。

花嫁にはまず誠実さを求める王子の役はルネ・バルベラ。清らかな高音の響きが素晴らしかった。華美を嫌い粗末な警備員の制服姿に変装して理想のお妃を探して全国行脚している王子様。しかし中年歌手のお腹の突き出た巨体は、私に刷り込まれた白馬に跨って助けに来てくれる素敵な王子様にはとても思えず、これには困った。ライブだったら劇場の雰囲気飲まれて、美声と肥満体の矛盾は解消するかもしれない、などいろいろな想像して楽しんだ。

新国立劇場さん、次回の配信を期待しています。